

意見書

平成 29 年 12 月 25 日
公益社団法人日本動物福祉協会
獣医師調査員 町屋奈

福井県の第一種動物取扱業(販売・保管・訓練)の犬の飼養環境について、提出された視察報告書と画像等から獣医師としての意見を提出する。

記

1. 飼育環境状態

- ・日常的に多頭数及び過密に飼育されており、リラックスした姿勢で休むこともままならず、犬のストレスは大きい。また、未去勢のオス同士の場合、ケンカによる怪我等のリスクが想定される。
- ・十分な運動がさせてもらえていない為か同じ場所を巡回するようにぐるぐる回る犬が多数いる。ストレスによる常同行動の疑いがある。
- ・報告書によれば、頭痛を訴えるほどのアンモニア臭があったとのことで人獣共に、アンモニアによる眼及び鼻への刺激そして呼吸器系への健康被害が推測される。
- ・施設内は温度管理がされておらず、福井県の夏には 30 度を超える日があり暑く、冬は 0 度を下回る寒い気候から、夏は熱中症、冬は凍死のリスクが考えられる。
- ・水入れはあるもの、水は糞で汚れており、頭数に対して数も不十分である。
- ・犬がいる状態で、ホースで放水し清掃をしているとのことで、それにより、常に濡れた状態に置かれていることは、皮膚病のリスクの他、温度管理されていない状況下で冬季には凍え衰弱する可能性が十分考えられる。
- ・放水時に一緒に犬を洗っているとのことだが、温度管理されていない水を勢いよく直接不特定多数に向けて浴びせることは、犬にかなりの恐怖及び健康被害を与えているものと考えられる。

・床面が網目状であることは、爪を引っ掻けるなど怪我をするリスクがある。側面は水分を浸透させやすいコンクリートなので染みついた糞尿の臭いは、水洗いしても取れるものではない。またコンクリートは熱伝導率が高いため、気温にかなり左右される。そのため、冷暖房の設備がないのであれば、動物たちにとってはかなり厳しい環境であると容易に推測される。

・現在、約 400 頭の犬のケアはスタッフ一人で実施しているとのことだが、この状態で適正な飼養をすることは実質不可能である。そのため、給餌は一頭ずつケージに入れて餌を与えているとのことだが、全頭に毎日十分量を与えられているとは考えにくい。

2. 身体的状態

タフツ・アニマル・ケア&コンディション尺度 (TACC) の身体的尺度の評価 4~5 又はボディ・コンシャス・スコア (BCS) 1/5~2/5 の著しく栄養状態の悪い犬が散見する。また、被毛状態が悪い個体が多く、毛がぬけている個体も確認される。また、報告書には皮膚病や眼病等のある個体もいるとのことその他、このような過密状態及び収容能力を超えた頭数では、十分な健康管理ができないと判断する。

3. まとめ

身体的状態、気候における安全性、飼養環境状態及び身体的ケアの状態から、**生命にかかわるリスクが高く、TACC スコアも最悪の 5**であると評価せざるを得ない。また、身体的な苦痛の他、過度の吠えなどの異常行動や劣悪な飼養環境(過密で休息場所がない、十分な運動できない等)から精神的な苦痛も考えられる。このことから、適切な飼養管理ができていないことは明らかであり、**犬に不必要な苦痛が与えられているネグレクト状態**であると判断する。

以上